



守口ロータークラブ 週報 No. 39



人類に
奉仕する
ローター

青少年奉仕月間

2016~17・RIテーマ

本日のピアノ演奏

「知恩院御忌(ぎょき)大会(だいえ)」

1. ダニーボーイ 2. 明日にかけの橋 3. SING

本日例会 2017年05月17日(水)
(第2716回)

「守口署管内の犯罪情勢等について」
守口警察署長 脇山 博次 様
担当：国際奉仕委員会

次回例会 2017年05月24日(水)
(第2717回)

「キレイな噛み合わせで、めざせ！健康長寿」
～より噛める暮らしが未来を変える！～
医療法人愛岡会 神野歯科矯正：神野 時有 様
担当：ローター財団委員会

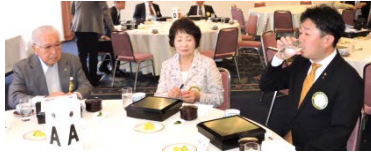
出席報告

例会日	出席	欠席	出席率
05月10日	29 (内免除者2名)	12	70.73% 【会員43名】
04月19日	34 (内免除者1名)		メイクアップ2名 (82.93%)



前回例会 (2715回) 5/10 の主な内容

◎お誕生日お祝い
中島警子会員・村田 有司会員・博多尚文会員



◆◆◆第11回理事会だより◆◆◆

日時：5月10日(水) 13：40～
場所：「事務局」出席：12名
議題：西原会員退会届について
・大阪水都ロータークラブ認証
伝達式について

◆◆◆委員会だより◆◆◆

○次年度親睦活動委員会
日時：5月10日(水) 11：30～
場所：「事務局」出席：8名
議題：次年度活動計画案

○次年度国際奉仕委員会引継ぎ
日時：5月10日 11：30～
場所：「事務局第2会議室」出席：3名

■ 会 長：三 浦 均
■ 幹 事：石 谷 隆 子
■ 広報雑誌・会報委員長：他 谷 勝
URL：http://www.moriguchi-rc.jp/

■ 例 会 場：ホテル・アゴラ大阪守口 守口市河原町10-5
TEL (06) 6994-1111 (代表) 〒570-0038
■ 事 務 所：守口市河原町10-5 ホテル・アゴラ大阪守口5F 〒570-0038
TEL (06) 6994-0010 FAX (06) 6994-0009
■ メールアドレス：info@moriguchi-rc.jp
■ 例 会 日：毎週水曜日 12時30分～13時30分

◎会長の時間

(会長 三浦 均)

卓 話

神田 隆司会員



「稀勢の里が先代から学んだ兵法」

相撲界で今最も注目を集める稀勢の里。3月の春場所で大けがを負いながら優勝決定戦の末、逆転優勝したのも記憶に新しいことです。

先代親方(元横綱隆の里)は角界きっての戦略家として知られ、中学卒業すぐに入門した稀勢の里は「考えて相撲を取る」姿勢を叩き込まれたそうです。

先代の指導は土俵の内外ともに厳しく、「力士にとって土俵は戦場である」との教えは孫子の兵法に通じました。

隆の里は現役当時、ウェイトトレーニングやサプリメントをいち早く取り入れるなど変人扱いされるくらいのイノベーターでしたが、最たるものは「相手への研究」でした。「彼を知り己を知れば百戦危うからず」という孫子の兵法は、相撲の必勝法に通じたからです。

相撲の稽古は「自分の型を磨く」ためのものです。自分の型になれば勝てるからで、つまり「己を知れば」の研鑽はどの力士も完璧なのです。

問題は「彼を知り」の部分で、ほかのスポーツでは対戦相手の研究は必須でしょうが、大相撲では「相手のことより自分を磨け」という意識が根強かったようです。隆の里はこれに異を唱え、「相撲は単なる力比べではない。立ち合いの駆け引きが勝負を左右する。」と考えました。

当時の最強力士は横綱・千代の富士。優勝するには千代の富士に勝たなくてはなりません。隆の里は千代の富士の取り組みの録画を、ビデオテープが擦り切れるまで繰り返し見て、まさに鬼気迫る集中力で研究したそうです。結果、難敵の立ち合いの癖を看破して、「千代の富士キラー」と言われるまじになりました。

2010年九州場所、稀勢の里が前頭筆頭の時、双葉山の69連勝を破るか期待された横綱・白鵬を破って、連勝記録を63で止めました。実は当日朝、先代が稀勢の里にある策を授けていたのです。先代は夜を徹して白鵬の相撲を研究し、白鵬が立ち合いで右を差せないとき一瞬引く、という癖を見つけ出しました。

「こっちは左を絞って白鵬の右差しを許さず、引いたところを一気に攻める。そのとき目の前に上手が有れば、ありがたくいただけ」と嗜んで含めるように稀勢の里に伝えたそうです。先代の読み通り、立ち合い稀勢の里は左で白鵬の右差し手を絞り、終始攻め続け、右上手をがっちり取って寄り切りしました。

5月14日に始まる夏場所、4横綱の賜杯争いが注目される中、稀勢の里は東の正横綱として支度部屋の一番奥に陣取ります。そこはすべてが見通せる横綱にしか見られない景色であり、ここに座ると気力が湧き上がってくる特別の場所なのです。「稀勢の里にこの景色を見せてやりたい」と先代隆の里が言っていたそうです。「地形は兵の助け」と孫子も場所の大切さを説いています。

「知恩院御忌(ぎょき)大会(だいえ)」

御忌大会(ぎょきだいえ)とは法然上人のご命日(1月25日)を期して行われる忌日法要で、知恩院で一番大きな且つ重要な法要です。法然上人がお亡くなりになられた後、その忌日に上人の門弟たちが修した知恩講に由来します。

もともと御忌(ぎょき)という言葉は天皇の忌日法要を指していましたが、大永4年(1524年)後柏原天皇より「毎年正月、京畿の門葉を集め、一七昼夜にわたって法然上人御忌をつとめ、はるかに教えの源をたずねよ」という「大永の御忌鳳詔」が出されました。これにより法然上人の忌日法要を御忌と呼ぶようになりました。

毎年1月18日から1月25日までの7日間、御忌が盛大に勤められるようになりました。几董の句に「着だふれの京を見に出よ御忌詣」とあるように、当時の人々が華やかに着飾って参拝に出かけたので、御忌は「衣装競べ」とも呼ばれました。ただ1月の京都は極寒であるために、そのような雪深い寒い時ではなく盛大にやるなら暖かい、みんなが集まりやすい季節にしようということで、明治10年(1877年)から4月に御忌が勤められるようになり、4月18日の午後から25日の午前までの8日間、日中・逮夜の各法要が勤められます。

日中法要では、法然上人を讃える節付きの風誦文(ふじゅもん、祖師報恩の志を述べる文)の唱導が行われます。この風誦文を唱える役が唱導師です。唱導師を拝命することは大変名誉なことであり、唱導師をされる方は、風誦文の唱え方や作法を指南役の方より半年にわたって教授されます。当日は浄土宗独特の七九条袈裟を被着して唱導師を勤めます。

後柏原天皇から詔勅を賜ったとき、笏も下賜されました。これにちなんで、逮夜法要では、笏を打ち拍子を取り、念仏を唱えながら堂内を練り歩く笏念仏行道が行われます。

ニコニコBOX S・A・A

- 石井 会員 草木も新緑に輝き万物皆成育の好季節を迎えて。
 - 三浦均会員 少しうれしい事がありました。
 - 佃 会員 前回の例会でゴルフを通じて、守ロイブニングRCさんと親睦を深められ事をご報告できました。
- 05/10ニコニコBOX 1,049,000円